

新たに登録されるカンキツ‘口之津17号’，‘興津43号’，‘興津44号’の特性						
〔要約〕 ‘口之津17号’は1月以降，‘興津44号’は2月以降，‘興津43号’は3月以降が可食期となる新しい系統である。いずれの系統も含核数は少なく，食味は良好である。						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成7年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

国の研究機関で育成されたカンキツ新系統の本県への適応性を明らかにする。

新系統の来歴

系統名	交配組み合わせ		
	(♀ × ♂)		
口之津17号	清見	×	アンコール
興津43号	清見	×	セミノール
興津44号	清見	×	ポンカンF2432

〔成果の内容・特徴〕

① ‘口之津17号’は果実重が200～250gになり，剥皮は容易であり，含核数も少なく，食味は非常によい。露地栽培では浮き皮果は発生しないが，施設栽培では1月以降に発生する。

酸含量は，1月中旬には1.0g/100mL程度に低下する（表1，2）。

② ‘興津44号’の果実重は，露地栽培では150g程度，施設栽培では200g程度である。露地栽培では，浮き皮果はほとんど発生しないが，施設栽培では12月になると発生する。また，露地栽培では1月になると寒害を受けやすい。剥皮は容易で，含核数も少なく，食味はよい。

酸含量は，1月中旬で1.5g/100mL程度で，可食期は，2月以降と思われる（表1，2）。

③ ‘興津43号’の果実重は200g前後である。果皮は，濃橙色でやや剥皮しにくい。含核数は少なく，食味はよい。

酸含量は，2月中旬でも1.7g/100mL程度と高く，可食期は3月以降と思われる（表1，2）。

〔成果の活用面・留意点〕

平成8年度中に命名登録される予定である。

[具体的データ]

表1 '口之津17号', '興津43号', '興津44号' の果実及び果皮の特性

系統名	栽培法	調査 月日	果形 指数	1果 平均重 (g)	果 皮					
					果皮色	カラチ ャト値 (赤道部)	粗 滑	はく皮 の難易	厚さ (mm)	浮皮
口之津17号	露 地	1.19	126	225	橙	7.7	中	易	2.6	無
"	ハウス	1.19	127	234	橙	7.5	中	易	2.3	軽
興津44号	露 地	1.19	126	155	橙	7.6	中	易	2.3	軽
"	ハウス	1.19	112	214	橙	7.7	中	易	3.3	甚
興津43号	露 地	2.20	107	235	濃橙	10.2	粗	やや難	3.5	無

表2 '口之津17号', '興津43号', '興津44号' の果肉の特性及び品質

系統名	栽培法	調査 月日	果 肉					果 汁		
			果肉 歩合 (%)	じょうのう 膜の厚さ	色	硬さ	含核数	糖度	酸含量 (g/100ml)	糖酸比
口之津17号	露 地	1.19	79.6	中	橙	軟	4.0	11.3	1.08	10.5
"	ハウス	1.19	76.9	中	橙	軟	4.2	11.0	0.86	12.8
興津44号	露 地	1.19	76.1	中	橙	中	4.0	12.6	1.66	7.6
"	ハウス	1.19	73.8	中	橙	中	5.8	12.3	1.52	8.1
興津43号	露 地	2.20	76.3	やや厚	橙	軟	3.0	12.4	1.73	7.2

[その他]

研究課題名：中晩生カンキツの特性調査並びに栽培試験

予算区分：県 単

研究期間：平成7年度（平成6年～10年）

研究担当者：濱口壽幸，岸野 功

発表論文等：平成7年度 長崎県果樹試験場業務報告。

残された問題点：新品種の栽培技術の確立に努める必要がある。